

平成30年11月9日

美咲町教育委員会
教育長 柴原 靖彦 殿

評価者 佐々木 勇
(美作大学生生活科学部)

「美咲町教育委員会事務の点検・評価に関する報告書」に関する所見

1 教育委員会の組織及び活動について

年間5回開催されている岡山県教育委員会・美作地区市町村教育委員会研修会などの研修会等に積極的に参加し、県内外の教育情報について識見を深めるなど、意識の向上に努めている。また、教育委員会は定例会をはじめとして、事務局職員ともよく連携し、十分な時間をかけて審議及び協議が熱心に行われている。

教育行政の重点目標及び施策、人事、施設管理をはじめとした、多くの議題が検討されているが、数値目標が設定されており、マネジメントサイクルによる評価がされている。引き続き、関係部局との連携も深めながら事務の執行や活動が行われると、より素晴らしい効果が期待されるものと思われる。

2 教育委員会が管理執行する事務について

(1) 基本的・総務的事務

平成24年度より『美咲町教育振興基本計画』に基づいて、年度ごとに重点方針を設けて推進し、平成29年には住民アンケートにより評価を受けている。その結果をもとに、成果と課題により次のステップとなる、『第2次美咲町教育振興基本計画』が策定されたのは大いに評価されるのであるが、「美咲町教育推進の体系」の図については、社会情勢も大きく変化してきているので、再編成を要する事項も出てきているのではないかと考えられる。

「施設・整備面」では、周辺整備もよく行われており、児童・生徒が快適な環境で学校教育活動ができるよう整備されている。

(2) 人的管理に属する事務

県費負担教職員の人事については、津山教育事務所と連携をとりながら、学力向上や問題行動の課題解決に向けた取組ができています。また、教職員の指導力向上に係る校内外の研修も、教育委員会職員のリーダーシップにより、指導・助言が行われての研修になっている。現在、教職員の多忙化等が言われているが、このことについても教師業務アシスタントの配置や、校務支援システムの導入により、業務負担の軽減に努められていることは大いに評価される。

現在、特別支援教育については特別支援を要する児童生徒の増加により、教育充実のためにいろいろと工夫・改善が行われている。本町においては、県費だけでなく町費による配置が行われ、県教育委員会だけでなく町長部局主催の研修も行い、研鑽も深めているので、引き続き継続した取組が期待される。

3 主要事業の点検評価について

(1) 学びプラン

① 学力向上

『新学習指導要領』が告示され、「主体的・対話的で深い学び」の学習が全国各地の学校で試みられている。「授業改善の働きかけ」では、数値目標を設置して実施されているが、学力は全国平均に及ばない点も見られる。「主体的な学び」では子どもたちの問いの引き出し方の難しさ、学習への興味・関心の薄さ・低さ・なさなどの対応をどうするか。「対話的な学び」ではペア・或いはグループ学習、参加に意欲的でない児童の指導の在り方をどうするか。「深い学び」とはどの程度のものかなど、課題は多い。しかし、移行措置が始まった以上、試行錯誤と切磋琢磨による取組が必要となってくる。

全国の先進校を見ると、児童生徒の学習に対する心構えというか視線は教師に集中しているのはどこも同じである。つまり、どれだけ教師に目を向けさせる授業をするかではないかと思われる。

② 健全育成

「あいさつ運動の推進」「基本的生活リズムの向上」「スマホ等の対策の推進」「人権教育の推進」などはきめ細かな取組がされており、全体を網羅しての評価となっている。現在、スマホの使用時間とか利用料金についていろいろと言われているが、その時間を減らすばかりを考えるのではなく、家族との団らんの時間であったり、共通の話題の時間を増やすと、家庭内でのコミュニケーションの時間が増え、料金や利用時間も減るなど、一石二鳥になるのではないか。

③ 読書推進

就学前児童の読書推進の方策は大いに評価されるものである。早期からの読書推進は読書に親しむ環境づくりにつながるとともに、人材育成につながるものと期待される。町内の三つの図書館では、若い母親が子どもを連れて来館されたり、高齢者の方の読書をされたりする姿を見ることができている。このことが、児童生徒の読書のための利用や、イベントの参加につながっているものと思われる。

(2) つながりプラン

① 学校支援

「おかやま子ども応援事業の効果的な推進」については、どの事業とも大きな成果が上げられている。このことは、事業担当者のきめ細かな取組の成果であろうと思われる。「成果と課題」にもあるように、スタッフの減少傾向や、担当者とは逆の目的外利用などの傾向については、どこかで歯止めをする必要がある。また、これからは学校から地域への支援だけを求めるのではなく、学校を核とした地域づくりを目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う「地域学校協働活動」が重要なものとなってくる。

② 地域学習

「地域に愛着を持った子どもの育成」「地域の教材・人材の活用」では、大きな成果が見られる。このことが、子どもたちの「地域を愛する、ふるさとを愛する心」につながり、ふるさとに定着する子どもが一人でも多く出てくることが期待される。「岸田吟香」「本田益次郎」「山田方谷」については、それぞれが旧町に関わっている人物なので、子どもたちに調べさせて、発表する場を設ける方法も考えられる。

③ 住民交流

各地域で開催される文化祭や地域との交流では、小中学生の積極的な出品や多数の参加が見られることは素晴らしいことである。また、中学生が町花の菊作りをすることは、町民の方との交流だけでなく心の教育にもつながるものである。

(3) 夢はぐくみプラン

① 夢育て支援

現在、各地で多くの学校はグローバル化や国際化に向けての取組が、盛んに行われている。本町では、ALTの充実や小学生対象のイングリッシュキャンプの実施、中学生対象のニュージーランド短期留学、2020年度に向けて3地区ともに、充実した各種講座等が開催されているのが大いに評価される。

キャリア教育の充実については、早い時期から教育活動全体を通して推進されており、成果の発表を行ったり、各総合支所などに掲示されたりしているのがとても効果的である。

② 子育て支援

家庭教育支援チーム、学校教職員等の親育ち応援プログラムによる保護者のつながりの支援では、継続した取組ができています。これをさらに、早期の段階ですべての子どもたちをスクリーニングにかけて、全体を見ることができるようになれば、特別支援を要する子どもの早期対応につながるものと思われる。

③ 生きがいづくり

他地域に誇れる、文化・芸術・文化財が町内には多い。そして、これらの優れたものがよく保存されたり伝承されたりしている。また、魅力ある生涯学習講座の充実や社会教育団体の育成等にも成果が上がるように努められている。

4 全体を通して

今回は、第2次『美咲町教育振興基本計画』の項目に基づいて点検・評価ということなので、より具体的に内容についての点検・評価となり、とても分かりやすいものとなっている。そのため、成果と課題によって次年度への取り組みが明確になってくる。

現在は、平成29年度からの教育振興基本計画であるが、社会情勢も大きく変わってきているので、それぞれの項目が妥当なものか、また項目内容についての検討も必要ではないかと思われる。たとえば「学びプラン」の「2 しつけ支援」と「つながりプラン」の「5 地域学習」を入れ替える方法も考えられる。そうすることにより、他部局との取組の強化や連携が、今までとは違ったものになるのではないだろうか。